

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30 から くらしの植物苑東屋

第107回 2月23日(土)『浜のくらしと植物』 江口誠一 (千葉県立中央博物館)

第108回 3月22日(土)『古代のウメとサクラ』 仁藤敦史 (本館研究部歴史研究系)

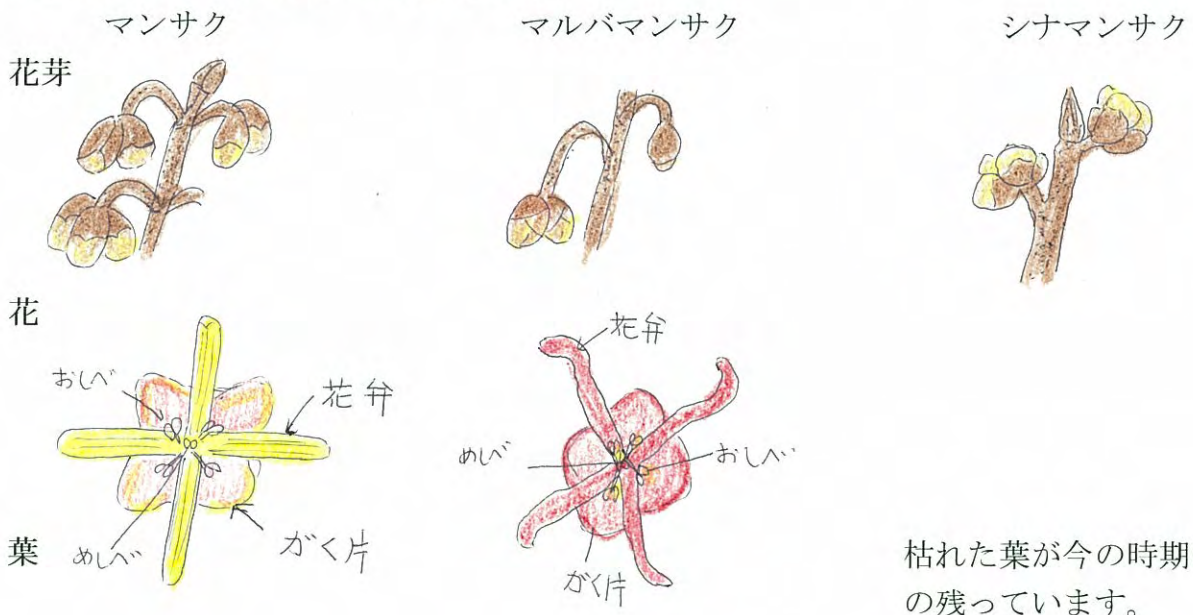
今週のみどころ <http://rekihaku.ac.jp>

今見られる花

サザンカ群、カンツバキ群、ハルサザンカ群、ヤブツバキ、シロバナヤブツバキ、
有楽(ツバキ)、雲竜椿、フクジュソウ、スイセン、ナバナ

シナマンサクとマルバマンサク〈アカバナマンサク〉

苑内には植わってありませんが、今の時期は花芽と花を中心にマンサク、マルバマンサク、シナマンサクを比べて見ましょう。



アカバナマンサク (マンサク科マンサク属)

マルバマンサクの変種で、花弁やがくの部分が赤いものをいいます。葉はまだ出ていませんが葉の上半部がまわるのが特徴です。シナマンサクの葉と比べてみてください。花芽のつき方も違います。英語で Japanese Witch-Hazel といいます。



シナマンサク (マンサク科マンサク属)

中国中部原産で花の時期まで枯れ葉が残るのが特徴です。リボンの様な線形の黄色の花弁が4枚、がく片は4個で暗紫色をしています。花弁は内側に巻いたリボンが1枚ずつ伸びていくような咲き方をします。花にいい香りがあります。英語で Chinese Witch-Hazel、中国語で金縷梅といいます。



ニオイミツマタ (ジンチョウゲ科ミツマタ属)

ミツマタの園芸品種で、かすかな匂いがあります。ミツマタの名前は7月ころ枝の先が3本に分かれてくることからついていて、今は頭状の花序が見られます。花序は30から50個の花からなり、先端が4裂しているので花序のようにみえますががくです、花が咲いている頃に枝を切り取り、湯がいてから皮をむいて繊維とし、和紙の原料にします。英語で Paper-Bush、中国語で結香といいます。



フキ (キク科フキ属)

日本原産で花序や花茎、葉柄を食用にする雌雄異株の多年草です。短い直立した茎の頂部に散房状の筒状花のみからなる頭花をつけます。葉柄を〈ふき〉、花茎を〈ふきのとう〉といいます。英語で Japanese Butterbur といいます。

